

2026年3月期 第3四半期決算説明会資料

2026年2月3日
株式会社ニチレイ

取締役上席執行役員 鈴木 健二

(1) 第3四半期の総括

- ・ 第2四半期に修正した通期計画に沿って概ね進捗
- ・ 売上高は、加工食品事業と低温物流事業が伸長したが、水産・畜産事業の構造改革により前期並み
- ・ 営業利益は、累計では12億円の減益だったが、第3四半期単独で増益へ転換

(2) 通期計画

- ・ 第2四半期で修正した計画を据え置き
- ・ 売上高は前期並みの7,000億円、営業利益は前期比12億円増益の395億円、当期純利益は第2四半期に投資有価証券を売却したことなどにより前期比33億円増益、過去最高の280億円を見込む

第3四半期の決算内容に加え、本日15時半ならびに先月発表しましたプレスリリース内容についてご説明いたします。

それでは最初に、決算説明会資料に沿って、第3四半期決算の概要をご説明します。

まず、第3四半期の総括です。

第2四半期で修正した通期計画に沿って概ね進捗いたしました。

売上高は、セグメントごとにバラつきはありますが、グループ全体では前期並み、営業利益は、累計では12億円の減益ですが、第3四半期単独では増益へ転換いたしました。

次に通期計画ですが、第2四半期で修正した計画を据え置いております。

売上高は前期並みの7,000億円、営業利益は前期比12億円増の395億円、当期純利益は、第2四半期に投資有価証券を売却したことなどにより、前期比33億円増益、過去最高の280億円を見込みます。

- 2026年3月期 第3四半期実績（P.3～11）
- 2026年3月期 通期計画（P.12～14）
- その他（P.15～18）
- Appendix（P.19～35）

注：当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し、一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。

1 第3四半期実績

連結業績実績

おいしい瞬間を届けたい



● 営業利益は、第3四半期単独では加工食品事業の減益幅が縮小し増益へ転換

(単位: 億円)

	第3四半期				第3四半期累計				
	実績	増減	前期比	率	実績	増減	前期比	率	通期計画に対する進捗率
食品	1,145	△28	△2%		3,213	△116	△3%	78%	
加工食品	865	54	7%		2,513	149	6%	75%	
水産	172	△26	△13%		384	△80	△17%	96%	
畜産	135	△38	△22%		385	△143	△27%	84%	
消去額	△26	△18	—		△69	△42	—	—	
低温物流	781	59	8%		2,253	158	8%	75%	
不動産	13	△2	△12%		37	△1	△3%	78%	
その他	17	△7	△28%		40	△11	△22%	72%	
調整額	△56	1	—		△166	△1	—	—	
売上高合計	1,900	23	1%		5,377	28	1%	77%	
(海外売上高合計)	448	24	6%		1,281	49	4%	74%	
食品	59	△5	△8%	5.1%	149	△33	△18%	76%	4.6%
加工食品	48	△2	△4%	5.6%	131	△30	△19%	73%	5.2%
水産	8	△3	△27%	4.6%	13	2	15%	131%	3.4%
畜産	3	△0	△12%	2.0%	6	△4	△41%	111%	1.4%
消去額	△0	△0	—	—	△1	△0	—	—	—
低温物流	60	11	22%	7.7%	153	28	23%	77%	6.8%
不動産	5	△0	△5%	38.8%	14	0	2%	80%	38.4%
その他	3	△4	△60%	17.2%	3	△8	△69%	113%	8.5%
調整額	△4	1	—	—	△14	△1	—	—	—
営業利益合計	122	2	1%	6.4%	305	△12	△4%	77%	5.7%
経常利益	126	1	1%		314	△17	△5%	78%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	77	0	0%		219	13	6%	78%	

【売上高】

主力の加工食品事業と低温物流事業が伸長したが、水産・畜産事業での構造改革の継続により、グループ全体では**前期並み**

【営業利益】

低温物流事業や水産事業は増益となったが、加工食品事業の減益が響き**12億円減益**

為替レート	26/3 3Q	25/3 3Q
米ドル/円	148.23	151.28
ユーロ/円	165.54	164.39
バーツ/円	4.48	4.24

(注) 1月～9月までの期中平均で算出

減価償却方法の変更等に伴う影響額	26/3 3Q
食品事業	10
低温物流事業	17
その他	1
合計	28

第3四半期の連結業績実績です。

売上高は5,377億円で、主力の加工食品事業・低温物流事業は伸長しましたが、水産・畜産事業は構造改革を継続しており、グループ全体では前期並みとなりました。

営業利益は、低温物流事業や水産事業は増益となりましたが、加工食品事業の減益が響きグループ全体では12億円の減益となりました。

なお、第3四半期単独では、加工食品事業の減益幅が縮小し、グループ全体で増益に転換しております。

加工食品事業 | 売上高・営業利益

おいしい瞬間を届けたい



- 価格改定効果は得られるも、先行して増加した原材料・仕入コストなどを吸収しきれず30億円減益

(単位: 億円)

	第3四半期				第3四半期累計				
	実績	前期比		営業利益率	実績	前期比		通期計画に対する進捗率	営業利益率
		増減	率			増減	率		
売上高合計	865	54	7%		2,513	149	6%	75%	
国内	681	37	6%		1,964	112	6%	76%	
家庭用調理品	253	7	3%		730	29	4%	74%	
業務用調理品	331	32	11%		923	87	10%	76%	
農産加工品	58	△5	△8%		169	△22	△12%	74%	
その他	38	3	9%		142	18	15%	83%	
海外	268	13	5%		806	32	4%	76%	
調整額	△84	3	—		△257	6	—	—	
営業利益合計	48	△2	△4%	5.6%	131	△30	△19%	73%	5.2%
国内	38	2	4%	5.6%	87	△25	△22%	69%	4.4%
海外	10	△2	△18%	3.7%	43	△9	△17%	81%	5.3%
調整額	0	△1	—	—	1	4	—	—	—

増収効果の内訳	第3四半期			第3四半期累計		
	増収率	単価	数量	増収率	単価	数量
家庭用調理品	3%	5%	△2%	4%	4%	0%
業務用調理品	11%	2%	9%	10%	2%	8%

【国内】

《売上高》

(家庭用調理品)

- ・ 米飯類やチキン加工品の価格改定の浸透などにより

4%増収

(業務用調理品)

- ・ チキン加工品や米飯類の数量伸長により10%増収

(農産加工品)

- ・ 価格改定後の販売数量回復の遅れなどにより12%減収

《営業利益》

- ・ 価格改定は浸透したものの、原材料・仕入コストの上昇や販売促進費の増加の影響を吸収しきれず25億円減益

【海外】

《売上高》

- ・ 北米のアジアンフーズ事業は前期並みで推移

- ・ 昨年1月に北米の水産・畜産事業を統合した北米販売子会社が増収に寄与

《営業利益》

- ・ タイの輸出事業における為替影響（ドル安パーツ高）などにより9億円減益

続いて、セグメント別の状況をご説明します。加工食品事業です。

全体の売上高は2,513億円で、前期比149億円、6%の増収となりました。

営業利益は、131億円で前期比30億円の減益となりました。

次に国内事業についてです。

家庭用調理品の売上高は、730億円で、前期比29億円、4%の増収となりました。昨年2月に実施した米飯類や今期8月に実施したチキン加工品の価格改定の浸透が寄与しました。

業務用調理品の売上高は923億円で、前期比87億円、10%の増収となりました。主に大手ユーザー向けのチキン加工品や外食向けの米飯類の販売数量が伸長しました。

農産加工品の売上高は169億円で、前期比マイナス22億円12%の減収となりました。価格改定後の販売数量回復の遅れなどが影響しております。

国内の営業利益は、価格改定効果は得られているものの、先行して上昇した原材料・仕入れコストや販売促進費の増加の影響を吸収しきれず、累計では87億円、前期比25億円の減益となりました。

続いて海外事業についてです。

売上高は806億円で、前期比32億円、4%の増収となりました。

主な増収要因は北米事業です。イノバジアン・クイジーン社のアジアンフーズ事業は前期並みで推移しましたが、昨年1月に水産・畜産事業を統合した販売子会社が増収に寄与しております。

一方、営業利益は43億円で、前期比9億円の減益となりました。

主な要因は、タイの輸出事業におけるドル安パーツ高の為替影響になります。

(単位: 億円)

主な内容

	26/3			
	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第3四半期 累計
前期 営業利益	58	52	50	161
増益要因	13	20	27	60
増収効果 (※1)	2	3	3	8
価格改定効果	7	14	19	40
生産性改善	1	0	1	2
償却方法の変更	3	3	4	10
減益要因	△28	△34	△29	△91
為替影響による原材料・仕入コストの増減	△11	△9	△6	△26
原材料・仕入コストの増減 (為替影響除く)	△12	△16	△18	△46
物流コストの増減	△1	△1	0	△2
動力燃料コストの増減	△1	0	0	△1
海外関係会社の業績影響額 (※2)	△1	△6	△2	△9
減価償却費の増減	△1	△1	△2	△4
その他 (※2) (※3)	△1	△1	△1	△3
当期 営業利益	43	39	48	131

(※1)収益性重視の施策の実行による利益効果も含む

(※2)表示区分の変更: 「海外関係会社の業績影響額」に含めていた「棚卸未実現利益の調整」を「その他」に反映。それに伴い第1四半期の数値を遡及修正

(※3)棚卸未実現利益の調整を含む

© Nichirei Corporation. All rights reserved.

6

● 増収効果 3億円

《プラス要因》▲

- ・大手ユーザー向けのチキン加工品や外食向けの米飯類の販売伸長

《マイナス要因》▼

- ・スナック類や農産加工品の販売数量の減少

● 価格改定効果 19億円

- ・2025年2月および7月～10月実施の価格改定の浸透

● 原材料・仕入コストの増減 (為替影響除く) △18億円

- ・主に米・卵・鶏肉類の調達価格の高騰

● 海外関係会社の業績影響額 △2億円

《プラス要因》▲

- ・北米事業における販売促進費の抑制

《マイナス要因》▼

- ・タイの輸出事業における為替影響 (ドル安パーツ高)

第3四半期単独の営業利益の増減要因について説明します。

まず増収効果です。今川焼を中心とするスナック類や農産加工品の販売数量が減少しましたが、大手ユーザー向けのチキン加工品や外食向けの米飯類の販売が伸長し、3億円の増益要因となりました。

価格改定効果については、2025年2月の米飯類に加え、7月～10月に実施した輸入チキン加工品などの改定が浸透し、19億円の増益要因となりました。

原材料・仕入れコストについては、第2四半期でご案内した状況から大きな変化はなく、米・卵・鶏肉類の調達価格の高騰・高止まりにより18億円の減益要因となっております。

海外関係会社の業績影響額については、上期まで減益となっていた北米事業が増益へ転換しましたが、タイ事業のマイナス影響が大きく、2億円の減益となりました。

海外事業の業績

海外売上高

(単位: 億円)

		2026年3月期					
		第3四半期			第3四半期累計		
		実績	増減	前期比	実績	増減	前期比
売上高	北米	112	22	24%	314	34	12%
	GFPTニチレイ	57	△8	△12%	191	4	2%
	その他	14	2	15%	43	△3	△7%
	合計	184	15	9%	548	35	7%

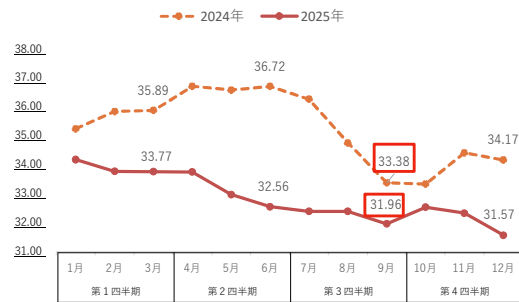
※北米にはイノバジアン・タイジーン社とニチレイサクラメントフーズ社（イノバジアン社 & NISA）の他、
北米で展開する全ての食品事業の数字を含める
※本表の数字は地域間消去後の数字となり「エリア・セグメント別売上高・営業利益」で開示する数字と異なる

【イノバジアン社+NISA】売上高・営業利益

		2026年3月期					
		第3四半期			第3四半期累計		
		実績	増減	前期比	実績	増減	前期比
売上高	連結通貨 (億円)	94	3	4%	284	5	2%
	現地通貨 (百万USD)	63	3	5%	191	7	4%
営業利益	連結通貨 (億円)	5	2	62%	10	△1	△10%
	現地通貨 (百万USD)	3.3	1.3	63%	6.7	△0.6	△8%
営業利益率 (連結通貨)		5.1%			3.5%		
為替レート (米ドル/円)					148.23		

※本表の数字は地域間消去後の数字となり「エリア・セグメント別売上高/国内外別営業利益」で開示する数字と異なる

ドル・バーツの推移



※月中平均レートで算出

続いて、海外事業の状況についてご説明いたします。

左上の海外売上高の表についてご覧ください。

タイのGFPTニチレイ社の売上高は57億円、前期比マイナス8億円、12%の減収となりました。主な要因は、カンボジア紛争による影響、中国向けの輸出不振、ドル・バーツ為替レートの影響の3点です。

右のグラフはドル・バーツの推移を表しておりますが、年間を通じてドル安・バーツ高の状態が継続しており、12%減収の最も大きな要因となりました。なお、カンボジア紛争による稼働調整の影響については、第2四半期の説明会でもアナウンスさせていただきました通り、第4四半期には回復しておりますのでご安心ください。

続いて左下の表をご覧ください。北米のイノバジアン・NISA事業です。

上期までは、ラテンブランドの棚代と呼ばれる販売促進費の影響で減益が続いておりましたが、第3四半期に入って概ねその影響が一巡しました。また、アジアブランドでも市場が低迷している中、下期以降販促を抑え、利益確保の施策を重視した結果、第3四半期単独では増益に転換しました。

● 水産・畜産ともに、事業構造改革が計画通りに進捗

(単位: 億円)

		第3四半期				第3四半期累計				
		実績	前期比		営業 利益率	実績	前期比		通期計画 に対する 進捗率	営業 利益率
			増減	率			増減	率		
水産	売上高	172	△26	△13%		384	△80	△17%	96%	
	営業利益	8	△3	△27%	4.6%	13	2	15%	131%	3.4%
畜産	売上高	135	△38	△22%		385	△143	△27%	84%	
	営業利益	3	△0	△12%	2.0%	6	△4	△41%	111%	1.4%

【水産】

《売上高》

- ・低収益商材の削減を計画的に進めたことにより**17%減収**

《営業利益》

- ・前期に収益性が低迷した魚卵の回復に加え、高収益商材や主力のエビ商品が好調に推移したことにより**2億円増益**

【畜産】

《売上高》

- ・国産、輸入冷凍品の低収益商材の削減により**27%減収**

《営業利益》

- ・大幅な販売数量削減により、固定費を回収できず**4億円減益**（食品事業統合後に収益改善予定）

次に水産・畜産事業です。
両事業とも、構造改革の継続により、売上高は減収となりました。

まず、水産事業です。

売上高は、低収益商材の削減を計画通り進めたことで384億円、前期比マイナス80億円、17%の減収となりました。

営業利益は、前期に収益性が低迷した魚卵が回復したことに加え、高収益商材や主力のエビ商品が好調に推移し、13億円、前期比2億円の増益となりました。

次に畜産事業です。

売上高は、385億円、前期比マイナス143億円、27%の減収、営業利益は6億円、前期比4億円の減益となりました。構造改革計画通りに、国産品および輸入冷凍品における低収益商材の削減を継続したことで大きく減収となりました。このため、固定費を回収できず4億円の減益となりましたが、食品事業統合に向けて固定費の改善を進めてまいります。

● 国内事業が引き続き堅調に推移し、売上高は8%増収、営業利益は28億円増益

(単位: 億円)

	第3四半期				第3四半期累計				
	実績	前期比		営業利益率	実績	前期比		通期計画に対する進捗率	営業利益率
		増減	率			増減	率		
売上高合計	781	59	8%		2,253	158	8%	75%	
国内事業	521	21	4%		1,519	67	5%	76%	
保管	186	6	4%		539	20	4%	76%	
輸配送	93	2	2%		278	7	3%	76%	
リテール	170	10	6%		493	30	7%	75%	
3PL	73	3	4%		210	10	5%	75%	
海外事業	245	28	13%		678	58	9%	75%	
その他・共通	15	10	204%		56	32	135%	69%	
営業利益合計	60	11	22%	7.7%	153	28	23%	77%	6.8%
国内事業	57	8	17%	10.9%	146	28	23%	84%	9.6%
海外事業	10	3	37%	3.9%	25	2	7%	60%	3.6%
その他・共通	△6	0	—	—	△18	△1	—	—	—

【国内】

《売上高》

- ・大都市圏を中心に保管・輸配送需要を着実に取り込んだことや、リテール事業が堅調に推移したことで**5%増収**

《営業利益》

- ・リテール事業や保管事業が堅調に推移したことや、減価償却方法の変更等も寄与し、**28億円増益**

【海外】

《売上高》

- ・前期に実施した英国フォワーディング会社の買収効果に加え、同国内の既存会社との連携により通関・保管需要を着実に取り込んだことで**9%増収**

《営業利益》

- ・ポーランドの新設倉庫の稼働遅れの影響はあったが、英国での事業が堅調に推移したことに加え、CSRD対応への費用の減少により**2億円増益**

続いて低温物流事業です。

売上高は2,253億円で、前期比158億円、8%増収、営業利益は153億円で、前期比28億円の増益となりました。

国内事業では、大都市圏を中心に保管・輸配送需要を着実に取り込んだことや、リテール事業が堅調に推移したことにより、売上高は1,519億円、前期比67億円、5%の増収となりました。

利益面では、リテール事業や保管事業が堅調に推移したことや、減価償却方法の変更等も寄与し、営業利益は146億円、前期比28億円の増益となりました。

海外事業は、前期に実施した英国フォワーディング会社の買収効果に加え、英国内の既存会社との連携により通関・保管需要を着実に取り込んだことで、売上高は678億円、前期比58億円、9%の増収となりました。

営業利益は、ポーランドの新設倉庫の稼働遅れの影響がありましたが、英国での事業が堅調に推移したことに加え、CSRD対応費用の減少により、25億円、前期比2億円の増益となりました。

	26/3			
	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第3四半期 累計
前期 営業利益	34	41	49	124
増益要因	10	12	12	34
集荷増による業績影響額	1	2	1	4
業務効率化	0	1	1	2
適正料金収受などの施策効果	3	3	2	8
海外	△0	△1	3	2
償却方法等の変更	6	5	6	17
その他	0	2	△1	1
減益要因	△3	△1	△1	△5
エネルギーコストの増減	△1	0	1	0
外部委託コスト増 (庸車・倉庫内作業含む)	△2	△1	△2	△5
当期 営業利益	41	52	60	153

主な内容

- 集荷増による業績影響額・業務効率化 2億円
 - ・「SULS」、「NL+LiNk」（※P34）の順調な拡大
 - ・年末商材に対する需要の着実な取り込み
- 海外 3億円
 - ・ポーランドの新設拠点の稼働遅れ(2025年1月予定が同年5月)の影響は残るが、英国での事業は堅調に推移
 - ・CSRD対応への支出費用が減少

次に営業利益の増減要因です。

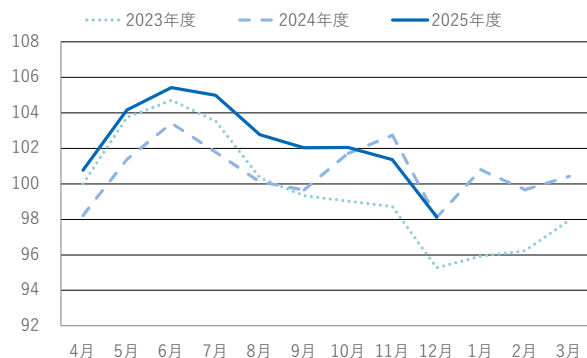
国内では、「SULS」、「NL+LiNk」の順調な拡大と年末商材に対する需要を着実に取り込んだことで、「集荷増による業績影響額」と「業務効率化」を合わせて2億円の増益要因となりました。

海外は、ポーランドの新設拠点の稼働遅延の影響が残るも、英国での事業は堅調に推移したことや、CSRD対応への支出費用が減少したことにより3億円の増益となりました。

国内の状況(在庫水準)

当社の12大都市 在庫屯数推移

※2023年4月の在庫屯数を100とした場合の推移



海外事業の業績

海外売上高

(単位: 億円)

		2026年3月期					
		第3四半期			第3四半期累計		
		実績	増減	率	実績	増減	率
売上高	欧州	220	25	13%	614	57	10%
	東アジア	15	△0	△1%	41	△1	△3%
	東南アジア	9	3	49%	22	3	14%
	合計	245	28	13%	678	58	9%

欧州売上高

		2026年3月期					
		第3四半期			第3四半期累計		
		実績	増減	率	実績	増減	率
連結通貨 (億円)	保管	90	14	18%	249	28	13%
	通関・輸配送	130	11	10%	366	28	8%
	合計	220	25	13%	614	57	10%
現地通貨 (百万ユーロ)	保管	52	6	13%	150	16	12%
	通関・輸配送	76	3	4%	221	16	8%
	合計	128	9	8%	371	32	9%

まず、左側の国内の在庫状況について説明いたします。

11月の入庫量は前年を下回る水準で推移したものの、在庫トン数は、回復傾向にあった前年と概ね同水準となり、堅調に推移しました。

続いて、右側の海外事業の業績をご覧ください。

海外売上高は第3四半期単独で245億円、前期比28億円、13%の増収となり、欧州や東南アジアでの事業が堅調に推移しました。

下段の表をご覧ください。

欧州売上高は、現地通貨ベースでも、第3四半期単独で9百万ユーロ、第3四半期累計では3千2百万ユーロ、それぞれ増収となりました。

2 通期計画

連結業績予想

おいしい瞬間を届けたい



● 第2四半期で修正した計画を据え置き

(単位: 億円)

	計画	前期比		前回計画比		営業 利益率
		増減	率	前回計画	増減	
食品	4,120	△219	△5%	4,120	—	
加工食品	3,330	214	7%	3,330	—	
水産	400	△187	△32%	400	—	
畜産	458	△216	△32%	458	—	
消去額	△68	△30	—	△68	—	
低温物流	3,000	217	8%	3,000	—	
不動産	48	△4	△7%	48	—	
その他	55	△10	△15%	55	—	
調整額	△223	△5	—	△223	—	
売上高合計	7,000	△21	△0%	7,000	—	
(海外売上高合計)	1,723	65	4%	1,723	—	
食品	195	△18	△8%	195	—	4.7%
加工食品	180	△8	△4%	180	—	5.4%
水産	10	△4	△29%	10	—	2.5%
畜産	5	△6	△54%	5	—	1.1%
消去額	0	0	—	0	—	—
低温物流	198	40	26%	198	—	6.6%
不動産	18	△1	△5%	18	—	37.5%
その他	3	△8	△72%	3	—	5.5%
調整額	△19	△2	—	△19	—	—
営業利益合計	395	12	3%	395	—	5.6%
経常利益	403	4	1%	403	—	
親会社株主に帰属する 当期純利益	280	33	13%	280	—	
EPS (円)	111.7	14.4	14.8%	111.7	—	

【売上高】

主力の加工食品事業と低温物流事業は増収を見込むが、水産・畜産事業での構造改革の完遂により全体では**前期並み**を想定

【営業利益】

食品事業は減益となるも、低温物流事業の伸長により**12億円増益の395億円**を見込む

為替レート	26/3		25/3実績
	想定	前回想定からの増減	
米ドル/円	150.00	—	151.57
ユーロ/円	160.00	—	163.94
パーツ/円	4.40	—	4.30

(注)25/3実績は1月～12月までの期中平均で算出

(単位: 億円)

減価償却方法の変更等に伴う影響額	26/3計画
食品事業	16
低温物流事業	24
その他	1
合計	41

続いて通期の連結業績予想についてです。

第2四半期で修正した通期計画から変更なく、売上高は前期並みの7,000億円、営業利益は前期比12億円増の395億円を見込みます。

セグメント別の通期計画に関しましても、第2四半期で修正した計画値から変更しておりませんので説明は割愛させていただきますが、計画値につきましてはAppendixにて19ページ以降に掲載しておりますので、後ほどご覧ください。

次のページにて加工食品事業の施策の進捗について説明をさせていただきます。

収益性の改善及び生活者による節約志向への対応

- 販促費コントロールの徹底による利益率改善と、節約志向に寄り添った「価格対応型商品」投入による数量維持の両立を図る

価格対応型商品

✓ 2026年2～4月新発売

【家庭用】



おうち炒め炒飯

懐かしの炒飯

半チャーハン

【業務用】



カリッとチキン

ポップチキン

(特) 菊たっぷりパリッと春巻

肉厚ジューシーハンバーグステーキ
(デミグラスソース)

RUカレー-Original (中辛)

加工食品事業の下期の施策について進捗をご報告させていただきます。

前回、下期の施策として販促費コントロールと節約志向に寄り添った「価格対応型商品」の投入をお伝えしておりました。

販促費コントロールについては、商品や顧客別の収益性を考慮し、再配分することで第4四半期以降効果が発現する見込みです。

「価格対応型商品」の投入については、家庭用・業務用ともに2～4月にかけて新商品の発売を決定しました。メニュー本来のおいしさを担保しつつ、加工度や配合・内容量などの調整でコストを抑え、ご利用頂くユーザーが使いやすく、また消費者が手に取りやすい価格帯で販売できるようにしました。

3 その他

- 北米事業の飛躍的な成長に向け、新たに子会社を設立し、アーカンソー州に工場新設を決定

会社概要	
名称	ニチレイグローバルフーズ社
本店所在地	米国 デラウェア州
事業内容	冷凍食品の開発・生産
資本金	106百万USD（予定）※
設立年月	2026年2月（予定）

工場概要	
工場所在地	米国 アーカンソー州 ジョーンズボロ市
工場面積	約175,000平方フィート
投資額	100百万USD～
従業員数	約180名

※イノバジアン・クイジーン社は、2026年9月までの期間において総額106百万USDの出資を段階的に行うことを予定しており、当該出資がすべて実行された時点における資本金の額を記載しております。



ここからは、本日の決算発表と合わせてリリースした北米事業の生産投資、決算期変更に加え、資本政策の取り組みについてご説明します。

加工食品事業の北米事業についてです。

本日、北米にイノバジアン・クイジーン社の子会社、「ニチレイグローバルフーズ社」を設立するというリリースをしました。当該会社に工場を新設し、イノバジアン・クイジーン社で販売するアジアンフーズを生産します。

工場予定地はアメリカの南東部にあるアーカンソー州で、原料調達や物流配送、市場消費地からの距離など、様々な点で優位性のある立地です。

北米事業の飛躍的な成長に向け、次期中計の早い段階での稼働を目指し、計画を着実に進めてまいります。

決算期変更

おいしい瞬間を届けたい



- グローバル経営基盤を強化するとともに、
経営情報の適時・適切な開示による更なる経営の透明性の向上を目的に決算期を3月末から12月末に変更
- 2026年6月下旬に開催予定の定時株主総会での承認を条件として、決算期を変更
- 決算期が3月末の会社（当社および国内の連結子会社）は12月末に変更
- 経過期間となる2026年12月期は、2026年4月1日から12月31日までの9ヶ月決算となる予定

会計期間		2024年度			2025年度									2026年度									2027年度																	
		4Q			1Q			2Q			3Q			4Q			1Q			2Q			3Q			1Q			2Q			3Q			4Q					
カレンダー		2025年												2026年												2027年														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
2025 年度	国内				1Q			2Q			3Q			4Q																										
	海外	1Q			2Q			3Q			4Q																													
2026 年度	国内															1Q			2Q			3Q																		
	海外													1Q					2Q			3Q																		
2027 年度	国内																									1Q			2Q			3Q			4Q					
	海外																									1Q			2Q			3Q			4Q					

続いて、決算期変更についてです。

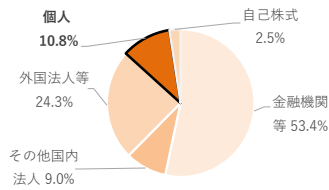
本日、ニチレイグループの決算期を従来の3月から12月に変更するというリリースを出しました。当該変更は、グローバル経営基盤の強化と、経営情報の適時・適切な開示による更なる経営の透明性の向上を目的として行います。

これまでは、海外子会社は12月末決算、国内は3月末決算と分かれており、海外子会社は3カ月遅れで連結財務諸表に取り込んでおりましたが、この変更に伴い、グローバルで決算期を12月に統一し、同じタイミングで財務諸表を作成することが可能になります。

なお、この変更により、2026年度は4月～12月の9か月決算となる予定です。

- 目指すべき株主構成の実現に向けて、①株式分割 ②株式の売出し ③株主優待制度の導入を実施

株主構成（2025年3月末時点）



【①株式分割】

- ・2025年4月1日を効力発生日として、株式分割（普通株式1株を2株に分割）を実施

【②株式の売出し】

概要

- ・実施日：2026年1月19日
- ・売出株式の種類及び数：
 - 当社普通株式19,235,300株（発行済み株式数の約7.5%）
- ・売出価格：1,791円
- ・売出価格の総額：約345億円

【③株主優待制度の導入】

株主優待の内容

- ・対象となる株主様の保有株式数及び継続保有期間に応じて、当社グループ商品の詰め合わせを進呈いたします。

保有株式数	継続保有期間	優待内容
500株以上	3年未満	2,500円相当
	3年以上	3,500円相当

*「継続保有期間：3年以上」とは、毎年3月末日及び9月末日における当社株主名簿に、基準日（毎年3月末日）から遡って、当社普通株式500株（5単元）以上を同一株主番号で連続して7回以上記載または記録されていることを指します。

*優待内容は変更する場合があります。

株主優待制度の開始時期

- ・2026年3月末日を基準日とする株主名簿に記載または記録された株主様のうち、当社普通株式を500株(5単元)以上保有されている株主様から進呈を開始いたします。

続いて、資本政策についてご説明します。

左上をご覧ください。2025年3月末の当社の株主構成です。個人は現状10%程度ですが、将来的には20%程度を目指したいと考えています。目指すべき株主構成の実現に向けて、株式分割、株式の売出し、株主優待制度を導入しました。長期的な視点でご理解・ご支援いただける個人投資家の方々に当社株式を保有いただくことで、株主層の多様化を通じた株価のボラティリティ抑制と資本コストの低減を図り、更なる企業価値向上に繋げていきます。

最後になりますが、今期も残り2か月を切りました。大変厳しい事業環境が継続しておりますが、掲げた施策を確実に実行し、良い状態で次年度に繋げていけるよう尽力してまいります。

4 Appendix

加工食品事業 | 売上高・営業利益・営業利益の増減要因

おいしい瞬間を届けたい



- 売上高は、業務用調理品が牽引し、7%増収を見込む
- 営業利益は、下期に増益に転じるものの、前期比8億円減益の180億円を見込む

(単位: 億円)

		通期					営業 利益率	
		計画	前期比		前回計画比			
			増減	率	前回計画	増減		
加工食品	売上高合計	3,330	214	7%	3,330	—		
	国内	2,601	170	7%	2,601	—		
	家庭用調理品	985	50	5%	985	—		
	業務用調理品	1,215	115	10%	1,215	—		
	農産加工品	230	△14	△6%	230	—		
	その他	171	19	13%	171	—		
	海外	1,057	16	2%	1,057	—		
	調整額	△328	28	—	△328	—		
	営業利益合計	180	△8	△4%	180	—		5.4%
	国内	125	0	0%	125	—		4.8%
海外	53	△12	△19%	53	—	5.0%		
調整額	2	4	—	2	—	—		

増収効果の内訳	通期計画		
	増収率	単価	数量
家庭用調理品	5%	3%	2%
業務用調理品	10%	2%	8%

(単位: 億円)

	26/3					
	第1四半期実績	第2四半期実績	第3四半期実績	第3四半期累計	通期計画	通期前回計画比
前期 営業利益	58	52	50	161	188	—
増益要因	12	19	26	57	109	—
増収効果(※1)	2	3	3	8	16	—
価格改定効果	7	14	19	40	60	—
生産性改善	1	0	1	2	9	—
償却方法の変更	3	3	4	10	15	—
その他(※2)(※3)	△1	△1	△1	△3	9	—
減益要因	△27	△33	△28	△88	△117	—
為替影響による原材料・仕入コストの増減	△11	△9	△6	△26	△29	—
原材料・仕入コストの増減(為替影響除く)	△12	△16	△18	△46	△61	—
物流コストの増減	△1	△1	0	△2	△4	—
動力燃料コストの増減	△1	0	0	△1	△2	—
海外関係会社の業績影響額(※2)	△1	△6	△2	△9	△12	—
減価償却費の増減	△1	△1	△2	△4	△9	—
当期 営業利益	43	39	48	131	180	—

(※1)収益性重視の施策の実行による利益効果も含む

(※2)表示区分の変更:「海外関係会社の業績影響額」に含めていた「棚卸未実現利益の調整」を「その他」に反映。それに伴い第1四半期の数値を遡及修正

(※3)棚卸未実現利益の調整を含む

低温物流事業 | 売上高・営業利益・営業利益の増減要因

おいしい瞬間を届けたい



- グループ業績をけん引し、売上高は8%増収、営業利益は40億円（26%）増益の198億円を見込む

(単位：億円)

(単位：億円)

		通期					
		計画	前期比		前回計画比		営業 利益率
			増減	率	前回計画	増減	
低 温 物 流	売上高合計	3,000	217	8%	3,000	—	
	国内事業	2,011	108	6%	2,011	—	
	保管	710	34	5%	710	—	
	輸配送	368	17	5%	368	—	
	リテール	655	43	7%	655	—	
	3PL	278	14	6%	278	—	
	海外事業	907	75	9%	907	—	
	その他・共通	82	34	71%	82	—	
	営業利益合計	198	40	26%	198	—	6.6%
	国内事業	175	31	22%	175	—	8.7%
海外事業	41	7	22%	41	—	4.5%	
その他・共通	△18	2	—	△18	—	—	

	26/3					
	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第3四半期 累計	通期 計画	通期前回 計画比
前期 営業利益	34	41	49	124	157	—
増益要因	10	12	12	34	51	—
集荷増による業績影響額	1	2	1	4	5	—
業務効率化	0	1	1	2	4	—
適正料金収受などの施策 効果	3	3	2	8	10	—
海外	△0	△1	3	2	7	—
償却方法等の変更	6	5	6	17	24	—
その他	0	2	△1	1	1	—
減益要因	△3	△1	△1	△5	△10	—
エネルギーコストの増減	△1	0	1	0	△1	—
外部委託コスト増 (庸車・倉庫内作業含 む)	△2	△1	△2	△5	△9	—
当期 営業利益	41	52	60	153	198	—

- 水産、畜産ともに、次年度の食品事業統合に向けて事業構造改革を完遂し、通期計画の達成を見込む

(単位: 億円)

		通期					
		計画	前期比		前回計画比		営業 利益率
			増減	率	前回計画	増減	
水産	売上高	400	△187	△32%	400	—	
	営業利益	10	△4	△29%	10	—	2.5%
畜産	売上高	458	△216	△32%	458	—	
	営業利益	5	△6	△54%	5	—	1.1%

エリア・セグメント別売上高・営業利益

2026年3月期 第3四半期

※ () 内は前年同期間比、ptはポイント (単位：億円)

		売上高								営業利益							
		日本	海外合計						地域間 消去等	合計	日本	海外	地域間 消去等	合計	営業利益率		
				北米	欧州	東南 アジア	東 アジア	その他							日本	海外	合計
食品		2,666	838	319	—	433	62	24	△ 291	3,213	103	45	1	149	3.9%	5.3%	4.6%
		(△135)	(29)	(30)	—	(3)	(△6)	(2)	(△10)	(△116)	(△27)	(△10)	(4)	(△33)	(△0.8pt)	(△1.4pt)	(△0.8pt)
	加工食品	1,964	806	319	—	427	35	24	△ 257	2,513	87	43	1	131	4.4%	5.3%	5.2%
		(112)	(32)	(36)	—	(3)	(△9)	(2)	(6)	(149)	(△25)	(△9)	(4)	(△30)	(△1.6pt)	(△1.4pt)	(△1.6pt)
	水産	361	32	—	—	5	27	—	△ 9	384	11	2	0	13	3.1%	4.9%	3.4%
		(△86)	(△4)	(△6)	—	(0)	(3)	—	(9)	(△80)	(3)	(△1)	(0)	(2)	(1.2pt)	(△1.8pt)	(1.0pt)
	畜産	385	—	—	—	—	—	—	—	385	6	—	—	6	1.4%	—	1.4%
	(△143)	—	—	—	—	—	—	—	(△143)	(△4)	—	—	(△4)	(△0.3pt)	—	(△0.3pt)	
消去額	△ 44	—	—	—	—	—	—	△ 25	△ 69	△ 1	—	0	△ 1	—	—	—	
	(△18)	—	—	—	—	—	—	(△24)	(△42)	(△0)	—	(0)	(△0)	—	—	—	
低湿物流	1,519	678	—	614	22	41	—	56	2,253	146	25	△ 18	153	9.6%	3.6%	6.8%	
	(67)	(58)	—	(57)	(3)	(△1)	—	(32)	(158)	(28)	(2)	(△1)	(28)	(1.5pt)	(△0.1pt)	(0.8pt)	
不動産・ その他	75	3	3	—	—	—	—	△ 2	77	21	△ 2	△ 1	18	27.3%	—	23.0%	
	(△8)	(△6)	(△6)	—	—	—	—	(1)	(△12)	(△5)	(△2)	(△1)	(△7)	(△3.1pt)	—	(△5.0pt)	
調整額	△ 164	△ 1	—	—	△ 1	△ 0	—	—	△ 166	△ 14	—	0	△ 14	—	—	—	
	(△0)	(△0)	—	—	(△0)	(△0)	—	—	(△1)	(△1)	—	(0)	(△1)	—	—	—	
合計	4,096	1,517	322	614	453	103	24	△ 237	5,377	256	67	△ 18	305	6.2%	4.4%	5.7%	
	(△76)	(81)	(24)	(57)	(5)	(△7)	(2)	(24)	(28)	(△4)	(△10)	(2)	(△12)	(0.0pt)	(△1.0pt)	(△0.3pt)	

貸借対照表の増減要因

おいしい瞬間を届けたい



(単位: 億円)

	2025年3月期 期末	2026年3月期 第3四半期	増減
資産の部			
流動資産	2,049	2,420	371 ①
固定資産	2,943	3,122	179 ②
資産合計	4,992	5,542	550
負債・純資産の部			
流動負債	1,291	1,616	325 ③
固定負債	942	1,000	58
負債合計	2,233	2,616	383
純資産合計	2,760	2,927	167 ④
(うち自己資本)	2,600	2,750	149
有利子負債	1,063	1,271	209
(うちリース債務除く)	927	1,134	207

	2025年3月期 第3四半期累計	2026年3月期 第3四半期累計	増減
設備投資額	218	243	25 ⑤
(うちリース資産除く)	201	214	13
減価償却費	179	163	△16
(うちリース資産除く)	154	137	△17

【主な増減要因】

- ① 売掛金 +187億円
- ② 機械装置及び運搬具 +41億円
- ③ 短期借入金 +109億円
- ④ 親会社株主に帰属する当期純利益 +219億円
- ⑤ コマーシャルペーパー +70億円
- ⑥ 配当金 ▲122億円

【2025年度の設備投資の主な実績】

- ① レクサム冷蔵倉庫増設（イギリス）13億円
- ② ラドムスコ冷蔵倉庫増設（ポーランド）18億円
- ③ ナワナコン物流センター建設工事（タイ）10億円

2026年3月期 年間業績・計画一覧

おいしい瞬間を届けたい



(単位: 億円)

	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第3四半期累計			通期		
	実績	増減	前期比	実績	増減	前期比	実績	増減	前期比	実績	増減	前期比	計画	増減	前期比
食品	1,038	△44	△4%	1,029	△44	△4%	1,145	△28	△2%	3,213	△116	△3%	4,120	△219	△5%
加工食品	826	47	6%	822	48	6%	865	54	7%	2,513	149	6%	3,330	214	7%
国内	635	36	6%	648	38	6%	681	37	6%	1,964	112	6%	2,601	170	7%
家庭用調理品	236	9	4%	241	12	5%	253	7	3%	730	29	4%	985	50	5%
業務用調理品	296	26	9%	295	30	11%	331	32	11%	923	87	10%	1,215	115	10%
農産加工品	54	△10	△15%	57	△8	△12%	58	△5	△8%	169	△22	△12%	230	△14	△6%
その他	49	11	28%	55	4	9%	38	3	9%	142	18	15%	171	19	13%
海外	278	15	6%	259	3	1%	268	13	5%	806	32	4%	1,057	16	2%
調整額	△88	△4	—	△85	7	—	△84	3	—	△257	6	—	△328	28	—
水産	105	△22	△17%	107	△32	△23%	172	△26	△13%	384	△80	△17%	400	△187	△32%
畜産	129	△57	△31%	122	△48	△28%	135	△38	△22%	385	△143	△27%	458	△216	△32%
消去額	△21	△11	—	△22	△12	—	△26	△18	—	△69	△42	—	△68	△30	—
低温物流	699	40	6%	773	58	8%	781	59	8%	2,253	158	8%	3,000	217	8%
国内事業	488	21	5%	510	25	5%	521	21	4%	1,519	67	5%	2,011	108	6%
保管	172	6	4%	181	8	4%	186	6	4%	539	20	4%	710	34	5%
輸配送	90	4	4%	95	1	2%	93	2	2%	278	7	3%	368	17	5%
リテール	158	8	5%	164	12	8%	170	10	6%	493	30	7%	655	43	7%
3PL	67	4	6%	70	3	5%	73	3	4%	210	10	5%	278	14	6%
海外事業	206	20	11%	227	10	5%	245	28	13%	678	58	9%	907	75	9%
その他・共通	5	△1	△18%	36	23	180%	15	10	204%	56	32	135%	82	34	71%
不動産	13	1	7%	12	△0	△2%	13	△2	△12%	37	△1	△3%	48	△4	△7%
その他	13	1	6%	10	△5	△35%	17	△7	△28%	40	△11	△22%	55	△10	△15%
調整額	△54	△2	—	△55	0	—	△56	1	—	△166	△1	—	△223	△5	—
売上高合計	1,708	△4	△0%	1,769	9	1%	1,900	23	1%	5,377	28	1%	7,000	△21	△0%
(海外売上高合計)	413	19	5%	420	6	1%	448	24	6%	1,281	49	4%	1,723	65	4%
食品	48	△14	△23%	42	△13	△23%	59	△5	△8%	149	△33	△18%	195	△18	△8%
加工食品	43	△15	△26%	39	△13	△25%	48	△2	△4%	131	△30	△19%	180	△8	△4%
水産	3	2	791%	2	2	1,602%	8	△3	△27%	13	2	15%	10	△4	△29%
畜産	2	△1	△40%	1	△2	△74%	3	△0	△12%	6	△4	△41%	5	△6	△54%
消去額	△0	△0	—	0	0	—	△0	△0	—	△1	△0	—	0	0	—
低温物流	41	7	20%	52	11	26%	60	11	22%	153	28	23%	198	40	26%
不動産	5	1	25%	4	△1	△11%	5	△0	△5%	14	0	2%	18	△1	△5%
その他	1	△0	△17%	△0	△3	△115%	3	△4	△60%	3	△8	△69%	3	△8	△72%
調整額	△7	△2	—	△2	1	—	△4	1	—	△14	△1	—	△19	△2	—
営業利益合計	87	△9	△9%	96	△5	△5%	122	2	1%	305	△12	△4%	395	12	3%
経常利益	92	△11	△11%	95	△8	△7%	126	1	1%	314	△17	△5%	403	4	1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	56	△8	△12%	85	21	32%	77	0	0%	219	13	6%	280	33	13%
ないし当期純利益															

ROICの推移

おいしい瞬間を届けたい



	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3E
グループ全体 ROIC (%) 目標：8%以上	8.0	8.1	7.8	7.6	7.5	7.8	6.9	7.5	7.4	7.6
NOPAT率 (%)	3.7	3.7	3.7	3.6	3.9	4.1	3.5	3.9	3.9	4.2
使用資本回転率 (回)	2.2	2.2	2.1	2.1	1.9	1.9	2.0	1.9	1.9	1.8
WACC (%)							4.0	4.0	4.0	4.5
加工食品										
簡易ROIC (%)	15.3	14.4	13.3	15.1	13.9	10.3	8.5	10.8	11.0	9.2
税引後営業利益率 (%)	4.7	4.6	4.5	4.9	5.3	4.0	3.5	4.1	4.2	3.7
主要使用資本回転率 (回)	3.3	3.2	3.0	3.1	2.6	2.6	2.4	2.6	2.7	2.5
低温物流										
簡易ROIC (%)	6.9	7.0	7.1	7.2	7.8	7.7	7.7	7.2	6.5	7.7
税引後営業利益率 (%)	3.9	4.0	3.9	4.0	4.3	4.5	4.3	4.2	3.9	4.6
主要使用資本回転率 (回)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.7	1.7	1.7
水産										
簡易ROIC (%)	2.7	1.0	0.6	1.5	2.0	3.3	3.5	2.9	8.0	8.2
税引後営業利益率 (%)	0.8	0.3	0.2	0.5	0.6	1.0	1.0	0.7	1.7	1.8
主要使用資本回転率 (回)	3.4	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.7	4.4	4.8	4.6
畜産										
簡易ROIC (%)	29.4	16.3	16.8	13.6	21.5	20.2	13.8	12.4	21.9	8.3
税引後営業利益率 (%)	1.3	1.0	1.1	0.7	1.1	1.0	0.8	0.9	1.1	0.8
主要使用資本回転率 (回)	23.3	16.4	15.1	19.1	20.0	20.1	17.9	14.1	19.8	11.0
バイオサイエンス										
簡易ROIC (%)	9.5	9.4	2.4	△2.2	△3.2	△3.0	8.9	12.5	10.7	3.3
税引後営業利益率 (%)	11.1	11.4	4.5	△4.5	△6.6	△6.1	12.0	15.2	12.2	4.3
主要使用資本回転率 (回)	0.9	0.8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	0.8	0.9	0.8

注：簡易ROIC=税引後営業利益÷主要使用資本（営業資金+有形無形固定資産）

各中計期間の業績の推移

おいしい瞬間を届けたい



(単位: 億円)

RING 2015 (13-15年度)				POWER UP 2018 (16-18年度)			WeWill 2021 (19-21年度)			Compass Rose 2024 (22-24年度)			Compass × Growth 2027 (25-27年度)					
				14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3E	27/3P	28/3P
食品													4,339	4,120	4,181	4,450		
加工食品	1,807	1,939	1,992	2,050	2,207	2,266	2,348	2,255	2,442	2,757	2,909	3,116	3,330	3,430	3,650			
水産	686	687	688	694	715	712	658	631	677	690	616	587	400	350	380			
畜産	801	895	920	881	904	911	883	841	803	858	818	674	458	434	453			
消去額												△38	△68	△33	△33			
低温物流	1,684	1,783	1,849	1,869	1,951	2,010	2,065	2,123	2,245	2,442	2,574	2,783	3,000	2,994	3,120			
不動産	50	47	46	46	49	48	50	46	43	45	45	52	48	49	50			
その他	37	44	52	45	53	58	57	49	42	61	68	65	55	478	583			
調整額	△191	△196	△194	△189	△199	△204	△212	△218	△226	△231	△228	△218	△223	△201	△202			
売上高合計	4,874	5,200	5,354	5,397	5,680	5,801	5,849	5,728	6,027	6,622	6,801	7,021	7,000	7,500	8,000			
食品													213	195	255	287		
加工食品	34	54	80	139	146	146	167	172	142	140	174	188	180	239	263			
水産	4	2	7	8	3	2	4	5	10	10	6	14	10	9	13			
畜産	1	4	4	16	13	15	9	13	12	10	10	11	5	7	12			
消去額												△0	0	0	0			
低温物流	89	87	100	106	113	114	118	131	146	151	158	157	198	211	226			
不動産	24	21	22	21	22	21	20	20	17	18	17	19	18	19	20			
その他	4	6	9	6	8	3	△3	△3	△3	8	13	11	3	34	46			
調整額	1	0	△5	△3	△5	△6	△6	△8	△9	△7	△9	△17	△19	△20	△19			
営業利益合計	158	174	216	293	299	295	310	329	314	329	369	383	395	500	560			
経常利益	144	169	214	291	307	299	318	335	317	334	383	399	403	512	571			
親会社株主に帰属する当期純利益	89	95	135	188	191	199	196	212	234	216	245	247	280	340	380			
総資産	3,185	3,420	3,385	3,462	3,673	3,773	3,900	4,057	4,276	4,573	4,852	4,992						
設備投資等（リース資産を含む）	240	242	162	139	250	241	273	378	279	304	313	345	289	396	410			
ROIC（％）	4.2	4.3	5.9	8.0	8.1	7.8	7.6	7.5	7.8	6.9	7.5	7.4	7.6	8%以上				
自己資本比率（％）	41.9	43.0	44.4	46.0	44.3	46.9	47.3	50.1	49.4	49.1	52.2	52.1						
営業利益率（％）	3.1	3.3	4.0	5.4	5.3	5.1	5.3	5.8	5.2	5.0	5.4	5.5	5.6	6.7	7.0			
ROE（自己資本利益率）（％）	6.9	6.8	9.1	12.1	11.9	11.7	10.9	10.9	11.3	9.9	10.3	9.6	10%以上					
1株当たり純利益（EPS）	31.1	33.3	47.2	67.6	71.1	74.8	73.6	79.6	88.4	83.6	95.9	97.3	111.7	135.7	151.7			
1株当たり配当金（DPS）	10	10	12	14	15	16	21	25	25	26	37	46	47	下限47				
期末日現在株価（円）	436	674	916	1,377	1,470	1,364	1,528	1,425	1,185	1,342	2,057	1,778						

注：①設備投資等には無形固定資産を含む、②25/4/1付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したことから、比較のためEPS、DPS、期末日現在株価は株式分割後に換算した金額で表示（ただし16/3以前は株式合併前のため実額を表示）、③26/3からの食品事業セグメントの開示変更に当たり、25/3は適及修正後の数値を記載している

SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比

市場	25/3期 1 Q	25/3期 2 Q	25/3期 3 Q	25/3期 4 Q	25/3期累計	26/3期 1 Q	26/3期 2 Q	26/3期 3 Q
全体	103%	105%	105%	105%	105%	106%	103%	104%
畜肉フライ	96%	96%	99%	101%	98%	104%	104%	101%
ピラフご飯類	101%	107%	104%	106%	105%	116%	109%	108%
おにぎり	107%	113%	107%	110%	110%	105%	102%	104%
スナック類	108%	111%	114%	112%	111%	109%	98%	100%
ハンバーグ	91%	98%	102%	100%	98%	99%	96%	97%

出典：インタビューSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年四半期比の推移（70代まで））。購入ルート＝生協店舗・店舗以外を含む。（宅配等含む）

当社の価格改定の【実施時期】と【改定効果の発現時期】

実施時期	改定対象	改定率 (当初計画)	2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期				2027年3月期			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
2023年7月	業務用	約8～27%																
2024年3月	家庭用	約1%～6%																
2024年4月	業務用	約1%～6%																
2024年9月	農産加工品、家庭用	約3%～7%																
2024年10月	農産加工品、業務用	約5%～7%																
2025年2月	家庭用	約10%～30%																
	業務用	約5%～30%																
2025年7月	業務用	約3%～8%																
2025年8月	家庭用	約8%～13%																
2025年9月	家庭用	約10%																
2025年10月	業務用	約10%																
	家庭用	約8～20%																
2026年2月	業務用	約5～25%																
改定効果（億円）			50	39	30	10	5	5	7	9	7	14	19	20				
			合計129億円				合計26億円				合計60億円							

海外売上高実績と計画 (単位: 億円)

		2026年3月期														
		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第3四半期累計			通期		
		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		計画	前期比	
			増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
売上高	北米	105	8	8%	96	5	5%	112	22	24%	314	34	12%	418	43	12%
	GFPTニチレイ	70	6	9%	64	6	11%	57	△8	△12%	191	4	2%	252	2	1%
	その他	15	△2	△13%	14	△3	△17%	14	2	15%	43	△3	△7%	59	△3	△6%
	合計	190	11	6%	174	8	5%	184	15	9%	548	35	7%	729	42	6%

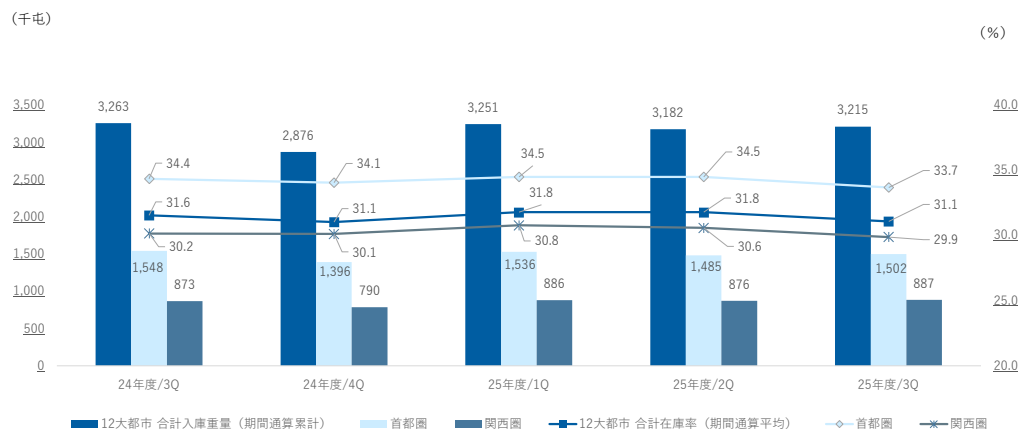
※北米にはイノバジアン・クイジーン社&ニチレイサクラメントフーズ社（イノバジアン社&NISA）の他、北米で展開する全ての食品事業の数字を含める
※本表の数字は地域間消去後の数字となり「エリア・セグメント別売上高・営業利益」で開示する数字と異なる

【イノバジアン社+NISA】売上高・営業利益

		2026年3月期														
		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第3四半期累計			通期		
		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		計画	前期比	
			増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
売上高	連結通貨（億円）	104	7	7%	87	△5	△5%	94	3	4%	284	5	2%	374	2	0%
	現地通貨（百万USD）	68	3	4%	60	2	3%	63	3	5%	191	7	4%	250	4	1%
営業利益	連結通貨（億円）	4	△2	△30%	1	△1	△50%	5	2	62%	10	△1	△10%	15	1	6%
	現地通貨（百万USD）	2.5	△1.2	△32%	1.0	△0.7	△41%	3.3	1.3	63%	6.7	△0.6	△8%	10.1	0.7	7%
営業利益率（連結通貨）		3.7%			1.5%			5.1%			3.5%			4.1%		
為替レート（米ドル/円）											148.23			150.00		

※本表の数字は地域間消去後の数字となり「エリア・セグメント別売上高/国内外別営業利益」で開示する数字と異なる

業界の冷蔵倉庫稼働状況



出典：一般社団法人 日本冷蔵倉庫協会「主要12都市受寄物庫稼働利用状況一覧表」を当社で加工

海外売上高

(単位：億円)

		2026年3月期														
		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第3四半期累計			通期		
		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		計画	前期比	
			増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
売上高	欧州	187	19	11%	207	12	6%	220	25	13%	614	57	10%	807	58	8%
	東アジア	12	0	1%	14	△1	△8%	15	△0	△1%	41	△1	△3%	63	6	10%
	東南アジア	7	0	5%	6	△1	△11%	9	3	49%	22	3	14%	37	11	41%
	合計	206	19	10%	227	10	5%	245	28	13%	678	58	9%	907	75	9%

欧州売上高

		2026年3月期														
		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第3四半期累計			通期		
		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		実績	前期比		計画	前期比	
			増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
連結通貨 (億円)	保管	77	9	13%	82	6	7%	90	14	18%	249	28	13%	349	52	18%
	通関・輸配送	110	10	10%	126	7	6%	130	11	10%	366	28	8%	458	6	1%
	合計	187	19	11%	207	12	6%	220	25	13%	614	57	10%	807	58	8%
現地通貨 (百万ユーロ)	保管	48	5	13%	50	5	10%	52	6	13%	150	16	12%	218	37	20%
	通関・輸配送	69	7	11%	77	6	8%	76	3	4%	221	16	8%	286	11	4%
	合計	117	12	12%	127	10	9%	128	9	8%	371	32	9%	504	48	10%

決算期変更

おいしい瞬間を届けたい



- 前期の数値を同一期間に組み替えた数値（参考値）を用いた前期比較も次年度以降開示予定

2026年度		会計期間		2024年度		2025年度												2026年度											
				4 Q		1 Q		2 Q		3 Q		4 Q		1 Q		2 Q		3 Q											
カレンダー		2025年												2026年															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
2026 年度	国内					1Q											1Q												
	海外			1Q					2Q			3Q				1Q				2Q				3Q					

↑参考値

2027年度		会計期間		2025年度		2026年度								2027年度											
				4 Q		1 Q		2 Q		3 Q				1 Q		2 Q		3 Q		4 Q					
カレンダー		2026年												2027年											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2027年度	国内																								
	海外		1Q				2Q					3Q			4Q		1Q			2Q			3Q		4Q

↑参考値

…当期
 …組換え後の前期情報（参考値）

● 価格対応型商品

規格や包装形態などの工夫や多様な顧客ニーズに対応した幅広い加工度を有し、「適正な収益性の確保」と「手に取りやすい価格帯」を両立した商品

既存定番商品

- ✓ 米飯類
- ✓ チキン加工品 など



本格炒め炒飯®



特から®



今川焼 (あずきあん)

市場提案型商品

食スタイル対応型商品

- ✓ everyONE meal
- ✓ パーソナルユース など



生薑香る参鶏湯



三ツ星プレート®回鍋肉 & 麻婆麺



お店で炒めるベースチャーハン

価格対応型商品

- ✓ 多様な価格帯・規格 など



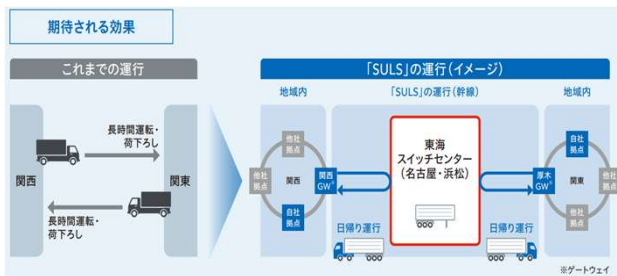
米飯類



農産加工品

● 「SULS（サルス）」

荷台切り離し可能なトレーラーと拠点での荷役作業を活用し、運行時間の短縮と輸送効率の向上を図る当社グループの拠点間輸送方式。

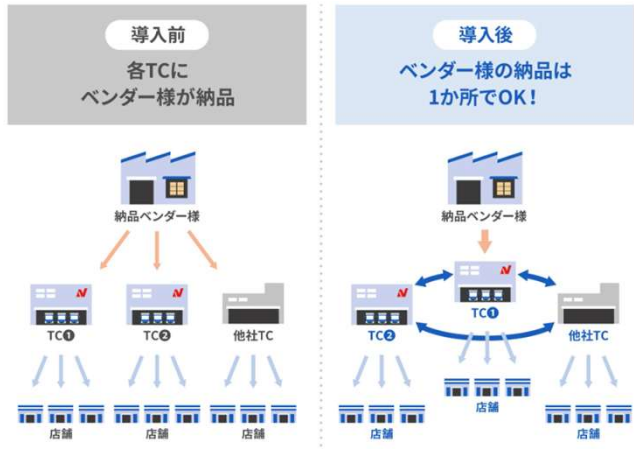


経済的価値

- ・ トータルの運行時間を大幅に短縮
- ・ 効率的でサステナブルな輸送基盤を構築
- ・ 輸送能力の大幅な拡大

● 「NL+LiNk（エヌエルリンク）」

ニチレイロジグループが提供する、リテール事業における納品ベンダー向けの輸配送効率化を目的としたネットワークサービス。



■特定子会社（孫会社）の異動に関するお知らせ

https://www.nichirei.co.jp/ir/news/2025/t_in207.html

■WICI ジャパン「統合レポート・アワード2025」において「Bronze Award（準優良企業賞）」を受賞

<https://www.nichirei.co.jp/news/2025/496.html>

■CDPの「気候変動」分野で、最高評価の「Aリスト」企業に初選定

<https://www.nichirei.co.jp/news/2025/499.html>

■ニチレイフーズ 2026 年春季新商品・リニューアル商品のご案内 全84品がラインアップ

https://www.nichireifoods.co.jp/news/2026/info_id44219/

■株式の売出しに関するお知らせ

https://www.nichirei.co.jp/ir/news/2026/t_in209.html

■売買価格等の決定に関するお知らせ

https://www.nichirei.co.jp/sites/default/files/inline-images/ir/pdf_file/news/20260119.pdf

■株主優待制度の導入に関するお知らせ

https://www.nichirei.co.jp/ir/news/2026/t_in208.html



レンジで冷たい
盛岡風冷麺



三ツ星プレート®
油淋鶏 & 上海焼そば風

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみに全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。